

地方都市における地域資源を生かした多様なツーリズムに関する基礎的研究

—各地の取組み事例と稚内市及び周辺地域における可能性—

遠藤 孝夫*, 中里 真由美**

● 要約

これからの旅行は個人化、細分化、多様化していくことが考えられ、それぞれのニーズにあったツーリズムをいかに提供できるかが重要になる。世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により稚内の観光産業も大きな影響を受けたが、今後は観光客入込数の回復が見込まれ、地域資源の再認識を基盤としたツーリズムの充実が重要になると考えられる。

本論文では、稚内の現状を踏まえ、テーマ別ツーリズムによる誘客に注目し、地域資源を生かした稚内観光の可能性を高めるための課題を考察した。そのため、各地の取組みを幅広く確認する方法としてインターネット上の各種情報を調査し、整理した。

最北の地を訪れることが目的であれば一度来訪すれば達成されるが、訪れたことをきっかけに他の地域資源や人々との関わりに魅力を感じてもらい、再訪に繋げることが重要である。地域資源を生かしたツーリズムは来訪するきっかけの一つである。来訪者が参加できる様々な活動を組み合わせ、その地域に興味を持ってもらうことで、リピーターとなる可能性が高まる。そこでは、行政、観光業関連、観光ボランティアの人々に加え、地域住民も広く関わりながらつくるツーリズムが重要となってくる。

● キーワード

ツーリズム

観光

地域資源

人々の交流

地方都市

* 育英館大学情報メディア学部教授

** 情報メディア学部夜間主クラス卒業生（2022年3月卒業）

1. はじめに

2020年、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、稚内の観光産業にも大きなダメージを与えた。特に団体での旅行は、感染症への警戒から大勢で行動することに抵抗感が高まり需要が減少し、稚内の観光産業は落ち込んだ(稚内市, 2021)。

2024年1月、2023年度上期の宗谷管内観光入込客数調査結果が公表された(北海道宗谷総合振興局, 2024)。宗谷管内市町村全体では、2023年度上期観光入込客数は137万8,100人で、感染症拡大前の2019年度同期の161万2,200人と比較すると85.5%まで回復した。稚内市単独では、2023年度上期観光入込客数は37万3,500人と、2019年度同期39万4,500人の94.7%まで回復している。

高橋(2020b)は、

日本全国の観光地が、どこでも誰でも万人が楽しめる、全方位的な幕の内弁当のような価格帯やサービスの提供を続け、「選択と集中」を実施しない限り、「第2のニセコ」となる成功事例は、日本には生まれまいだろう。キーワードは、消費よりも投資だ。日本全国すべての観光地がニセコになることはできないし、そうなる必要はないものの、なぜニセコに世界中の富裕層が集まっているのかを知ることで、次の日本の観光の発展につなげることができるはずだ。

と述べている。つまり、あらゆる年代世代所得ステージの人々をターゲットとした「幕の内弁当」型集客ではなく、ニセコはパウダースノーを最大限に生かし、「海外」「富裕層」「スキー」に絞った「選択と集中」を実践したことが成功に繋がったとの見解である(高橋, 2020a)(高橋, 2020c)。

これまでは観光地や旅行・観光事業者、マスメディアなどから発信された情報をもとに、特別なイベントとして旅行すること自体が目的である傾向が強かった。その後、インターネット利用の普及により、個人の価値観やライフスタイルに合わせた情報収集が容易になった。旅行はどこに行くかだけでなく、そこで何をするかが重要視され、趣味や個人の価値観、志向を体現する手段へと変化し、今後さらに個人化・細分化・多様化が進むことが考えられる。テーマ別ツーリズム^{注①}により誘客し、地場産業や地域の生活・文化を通して住民と交流する機会をつくるなど、旅先で旅行者が求める体験の実現に繋げることが重要になると考える。

本論文執筆者の中里は、2021年8月に関東、関西、中部からの参加者8名の稚内ツアーに同行し、後日アンケート調査を実施した。その結果、旅の目的として「知る、学ぶ、体験する」「現地の人々との交流」「何度も訪れるには、知り合いがいることが大きい」などの回答があり、人と人の交流にも期待があることがわかった。

日本最北の利尻礼文サロベツ国立公園を有する地域にある稚内市・礼文町・利尻町・利尻富士町の1市3町が連携し広域観光を推進する「きた・北海道DMO^{注②}」が2022年に実施した来訪者アンケート調査の結果でも、満足に感じていることとして自然・景観(47%)、グルメ(20%)に次ぐ3番目に人とのふれあい(8%)、4番目に体験(7%)が挙げられており、これらは宿泊施設(5%)といった回答の割合を上回っている(北海道新聞, 2023)(利尻富士町, 2023)。

稚内には都会的な建造物や商業施設は少ないが、地域資源が豊富にある。しかし、自分たちの住んでいる街の魅力に気付いていない住民が多いと考える。

今後は観光客入込数の更なる回復が見込まれている。地域資源の再認識を基盤としたツーリズムの

地方都市における地域資源を生かした多様なツーリズムに関する基礎的研究
 —各地の取組み事例と稚内市及び周辺地域における可能性—

充実がより重要になると考える。

本論文は稚内の現状を踏まえつつ、テーマ別ツーリズムによる誘客に注目する。今後の稚内観光を推進するためには、地域の魅力を再発見し、土地の特徴に磨きをかけ強みを作り、ツーリズムに活かしていくことが必要である。各地の取組みを幅広く確認する方法としてインターネット上の各種情報の調査を実施し、さまざまなテーマ別ツーリズムによる誘客について理解を深める。

各地における多様なツーリズムの動向を踏まえ、稚内市および周辺地域におけるツーリズムの課題について考察する。

2. 稚内市及び周辺地域における主な観光関連行事等

稚内市及び周辺地域における主な観光関連行事等を表1に整理する。

表1 稚内市及び周辺地域における主な観光関連行事等

通し番号	開催月	都市等	取組み主体	観光関連行事等名称	類型
1	2月	稚内市	わっかない氷雪の広場実行委員会（稚内商工会議所）	わっかない氷雪の広場	ローカル
2	5~6月	稚内市 豊富町 幌延町	JR北海道	「花たび そうや」号の運行	ローカル フード
3	1月	稚内市	わっかない観光活性化促進協議会 （稚内観光協会内）	初日の出inてっぺん	ローカル
4	1月	稚内市	宗谷オートスポーツアクション	大沼スノーアタック	アドベンチャー
5	2月	稚内市	宗谷ふれあい公園/わっかない観光活性化促進協議会 （事務局：（一社）稚内観光協会）	宗谷ふれあい公園スノーランド	アドベンチャー
6	2月	稚内市	全国犬ぞり稚内大会実行委員会	JAPAN CUP 全国犬ぞり稚内大会	ローカル
7	6月	稚内市	第7回日本最北端わっかない白夜祭実行委員会 （稚内観光物産協会青年部）	日本最北端わっかない白夜祭	フード
8	8月	稚内市	稚内みなと南極まつり実行委員会	稚内みなと南極まつり	ローカル
9	8月	稚内市	南中ソーラン全国交流祭in稚内実行委員会事務局	南中ソーラン全国交流祭	ローカル
10	9月	稚内市	わっかない観光活性化促進協議会	ガストロノミーウォーキング in 日本のとっぺん稚内	ヘルス ガストロノミー
11	9月	稚内市	日本最北端わっかない平和マラソン実行委員会	日本最北端わっかない平和マラソン	スポーツ
12	9月	稚内市	クラブツーリズム	秘境駅巡りながら目指すゴールは 最北の地へ・宗谷半島とサイクリング	サイクル
13	5~10月	稚内市	ポラリス・ネイチャーガイド&コンサルタンツ	感動の勇知川リバーカヤック	アドベンチャー
14	6~10月	礼文町	礼文町観光協会	礼文島トレイル7	アドベンチャー
15	6~10月	利尻町 利尻富士町	利尻島観光推進協議会事務局	利尻クエスト2023	アドベンチャー
16	10月	浜頓別町	浜頓別町観光協会事務局	ふるさとまつりin浜頓別	フード
17	6~9月	浜頓別町	浜頓別役場産業振興課	ウソタンナイ砂金探掘公園	アドベンチャー
18	10月	豊富町	一般社団法人豊富町観光協会 ポラリスネイチャーガイド&コンサルタンツ	ONSEN・ガストロノミー ウォーキングinとよみ温泉	ガストロノミー
19	1~3月	豊富町	ポラリス・ネイチャーガイド&コンサルタンツ	神秘的森と湖沼群を歩く！ 冬しか行けない特別なスノーシューツアー	アドベンチャー
20	1~3月	豊富町	ポラリス・ネイチャーガイド&コンサルタンツ	冬のサロベツ温泉スノーシュー	アドベンチャー
21	10月	枝幸町	よくばりフェスタ実行委員会事務局	よくばりフェスタ	フード

稚内市及び周辺地域の特徴を生かした行事が実施されている。

従来から見られる食にまつわるフードツーリズムには、夏至の時期に開催される「日本最北端わっかない白夜祭」における「白夜グルメ&ビアガーデン」などが挙げられる（稚内市建設産業部水産商工課, 2023）。

また、近年は2018年に始まった日本最北端わっかない平和マラソン（日本最北端わっかない平和マラソン大会実行委員会, 2023）などのスポーツツーリズムや、北海道立都市公園（広域公園）である宗谷ふれあい公園で開催される「宗谷ふれあい公園スノーランド」（きた・北海道DMO, 2023）といったアドベンチャーツーリズムなど、自然環境を活用した体験型の行事も増えてきている。

2018年にはONSEN・ガストロノミーツーリズムが稚内で実施されている。ガストロノミーとは、その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズムで、欧米を中心に世界各国で取り組まれており、わが国

独自に「温泉」をプラスした新しい体験が「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」とされ、海外からの観光客にも温泉の魅力を広く発信するため「ONSEN」と表記されている（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構, 2016）。

稚内における ONSEN・ガストロノミーツーリズムについては、後述する。

3. 地域資源を生かしたさまざまなツーリズムに関する各地の取組み事例

地域資源をいかに活用しツーリズムとして成り立たせるかに注目し、さまざまな地方都市で取り組まれている多様な事例について、インターネット上の情報を調査する。事業やプロジェクト等の名称や類型、取組み主体を整理したものが表 2 である。

表 2 地方都市で取り組まれているさまざまなツーリズムの例

通し番号	取組み開始年	都市等	取組み主体	事業・プロジェクト等名称	類型
1	2006	岡山県真庭市	地域DMO おかやま SDGs 研究会 真庭なりわい塾 真庭観光局	バイオマスツアー真庭	エネルギー
2	2014	佐賀県佐賀市	佐賀市	バイオマス産業都市	エネルギー
3	2016	岩手県葛巻町	くずまき観光地域づくり協議会 くずまきデザインেশョンプロジェクトチーム(くずまき型地域おこし協力隊)	くずまき高原牧場 くずまきワイン	体験型・宿泊型エネルギー
4	2021	青森県大鰐町	「OWANI」観光商品開発協議会	2021年度ヘルスツーリズム認証 OWANI 阿蘭羅の修験道 スノーハイクと温浴体験	ヘルス
5	2016	群馬県みなかみ町	みなかみ町観光協会	みなかみヘルスツーリズムプロジェクト	ヘルス
6	2020	石川県小松市	北国リゾート開発株式会社	ヘルスツーリズム認証プログラム	ヘルススポーツ
7	2021	北海道斜里町	北こぶし知床 ホテル&リゾート	流水を見渡せるサウナ	ヘルス
8	2021	北海道池田町	十勝まきばの家	ワイン樽サウナ	ツーリズム
9	2021	北海道当麻町	官民協働のタウンプロモーション 全部ある当麻町プロジェクト	当麻町「ととのう町」サウナプロジェクト キャンピングサウナバス	ヘルス
10	2012	栃木県大田原市	栃木県北那須地域の民間企業のリーダー並びに個人会員	那須高原オールスポーツアソシエーション	スポーツサイクル
11	2011	新潟県佐渡市	佐渡市/佐渡市スポーツ振興財団	スコットカップ（トライアスロン・サイクリング・マラソン・ウォータースイミングの4イベントを制覇）	スポーツ
12	2005	北海道千歳市	千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会	千産千消	グリーン
13	2003 2005	北海道長沼町	長沼町グリーン・ツーリズム推進協議会 長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会 長沼町産業振興課グリーン・ツーリズム推進室	長沼町グリーン・ツーリズム	グリーン
14	2001	北海道標津町	標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会	標津町エコ・ツーリズム	エコブルー
15	1988	青森県五所川原市	津軽地吹雪会 ラブリー金木	地吹雪体験ツアー	エコ
16	1981	北海道富良野市	富良野塾・富良野自然塾・ファーム富田など	自然環境とドラマのロケ地で富良野のイメージ作り	コンテンツフィルム
17	2011	北海道稚内市	稚内市	稚内次世代エネルギーパーク	エネルギー
18	2018	北海道稚内市	わっかない観光活性化促進協議会	ガストロノミーウォーキング in 日本のてっぺん稚内	ヘルスガストロノミー
19	1998	北海道稚内市	宗谷総合振興局 運営会社 稚内振興公社（指定管理者）	北海道立宗谷ふれあい公園	スポーツアウトドアマイクロ
20	2020	北海道稚内市	特定非営利活動法人 稚内カーリング協会（指定管理者）	稚内市みどりスポーツパーク	スポーツ
21	2019	北海道稚内市	稚内観光協会	レンタサイクル	スポーツサイクル
22	2011	北海道稚内市	最北稚内フットパス推進プロジェクト 日本最北端・稚内フットパス推進プロジェクト	フットパス	スポーツグリーン
23	1964 1992	北海道稚内市	稚内カントリークラブ ノースバレーカントリークラブ	ゴルフ	スポーツ
24	2019	北海道稚内市	わっかないフィルムコミッション	北の桜守パーク（稚内市映画北の桜守資料展示施設）	コンテンツ

3.1 エネルギーツーリズムの事例

1) 岡山県真庭市における取組み（一般財団法人自治体国際化協会, 2016）

真庭市は情報発信のためのコンテンツをバイオマスツアー一つに絞ったことで知名度があがり、多くの視察ツアーが催行されることとなった。2006年12月に視察ツアーがスタートした。バイオマスのガイダンス、ペレットと呼ばれる木質性資源の製造工場見学、バイオマスを使った温水プールの見学等である。バイオマスエネルギー施設をツアー化していること等が評価され、2007年10月次世代エネルギーパークに認定された。その結果、さらに知名度が上がりツアー客の増加に繋がった。また、海外からの視察も、2011年の23人から2015年には151人と増加している。

2) 佐賀県佐賀市における取組み (佐賀市, 2017)

佐賀市の「廃棄物であったものがエネルギーや資源として価値を生み出しながら循環するまち」バイオマス産業都市構想が、地域の特色を活かした環境にやさしく災害に強いまちづくりの実現に役立つものと認められ、2014年11月九州では初めてのバイオマス産業都市に選定された。「バイオマス産業都市さが」の視察申込ページでは、視察モデルコースや公共交通手段を利用したモデルコースが紹介されている。中でも交通手段の時刻を含めた情報提供は利用者に有益な情報となっている。

3) 岩手県葛巻町における取組み (葛巻町, 2021)

葛巻町は吹いているだけで使い道のない厄介な風を有効活用しようと発想を転換した。1999年に初めて風力発電所を建設し、その後は太陽光発電、バイオガスなど脱炭素社会へ向けたまちづくりを進めている。地域の自然を中心とする地域資源を活かした体験型観光は注目され、年間約50万人が町を訪れている。町の基幹産業である酪農と林業が風力発電のクリーンなイメージの付加価値もあり、畜産加工品やワインなどの特産品が全国的に認知度を高めている。

人口1万人弱の農村であっても風力発電事業の発展は地域住民の環境志向による地域づくりの意識向上に繋がった。2016年には「くずまき観光地域づくり協議会」を設立。地域資源の活用による地域経済の活性化を推進する主体となっている。

3.2 ヘルスツーリズムの事例

4) 青森県大鰐町における取組み (ヘルスツーリズム認証委員会, 2021a)

青森県大鰐町は手軽なスノーハイク体験と温浴体験で2021年度ヘルスツーリズム認証を取得した。体験内容は身支度後、スノーハイクを装着し阿闍羅山頂の阿闍羅大権現に参拝する。下山後は日帰りで入浴ができる。冬の屋外運動とその後の温浴で健康増進を図るプログラムである。

5) 群馬県水上町における取組み (ヘルスツーリズム認証委員会, 2021c)

群馬県水上町は、2016年日本三大岩壁のひとつ谷川岳一ノ倉沢の絶景を見ることができるハイキングでヘルスツーリズム認証を取得。専門ガイドによる地域特有の地形や動植物などの説明がある。全長6.6kmを約3時間半かけ、ノルディック・ウォーク（北欧フィンランドにおいてスタートした2本のポールを使ったウォーキング（全日本ノルディック・ウォーク連盟, 2009））による全身運動を実践するプログラム。前半は緩やかな登りでゆっくりと負荷をかけながら、歩き方の基本レッスン。後半はノルディック・ウォークの様々な歩き方のスタイルを体験し、中強度の健康ウォーキングとなっている。

6) 石川県小松市における取組み (ヘルスツーリズム認証委員会, 2021b)

石川県小松市の小松カントリークラブは2020年にゴルフのプログラムでヘルスツーリズム認証を取得した。ゴルフ体験運動指導活動、食体験活動で生涯健康を維持することを目的とし、企画・運営・発売を行う旅行パッケージプログラムである。18ホールラウンド後に個別にゴルフ健康貢献度を測定する。測定結果を基に、健康運動指導士が最適歩行改善プログラム、ラウンド前準備運動を個別提案指導する。その後9ホールラウンドし、ゴルフと健康ケアの関係を体験する。また食と健康につい

て学ぶ体験として、薬膳コーディネーターから旬の食材摂取の意義・有効性などについての話を交えながら会食し、運動と食により健康維持を図る体験プログラムとなっている。

7) 北海道斜里町における取組み (北こぶしリゾート, 2022)

北海道斜里町にある北こぶし知床ホテル&リゾートは、世界自然遺産である知床の大自然が眼下に一望できるよう 2021 年にリニューアルされ、サウナの窓を大きく設置した。冬にはサウナの窓からオホーツク海の流氷の風景を見渡すことができ、「今行くべき全国のサウナ施設」として年に一回発表・表彰されるサウナに 2021 年から 2 年連続選出されている。

8) 北海道池田町における取組み (十勝まきばの家, 2021)

「十勝まきばの家」のサウナは、池田町ブドウ・ブドウ酒研究所（池田ワイン城）で使われていたワイン熟成用の 8,000 リットルと 7,000 リットルの大樽を改造して作られたサウナである。料金設定は日帰り入浴とコテージを利用する宿泊プランでは違っている。

オープン前に行われた町や報道機関へサウナのデモンストレーションの公開時、池田町安井町長は「樽はワインの象徴。ワイン造りをする池田町の魅力を伝える資源になってほしい」と述べている（北海道建設新聞, 2021）。

9) 北海道当麻町における取組み (鈴木, 2021)

北海道当麻町のサウナは 2020 年に当麻町村椿町長が「当麻町の自然の中でサウナを基軸とした観光振興、リラックスしながら仕事のできる空間を創造したい」と Twitter で応募し、500 万円がふるさと納税として寄付されスタートした。2021 年 6 月から、本格的サウナが車内で楽しめる「キャンピングサウナバス」のレンタルを始めた。

3.3 スポーツツーリズムの事例

10) 栃木県大田原市における取組み (高根沢, 2021)

栃木県的那須高原オールスポーツアソシエーションは、2012 年 6 月に北那須地域の民間企業のリーダー並びに個人会員によって構成された地域スポーツコミッションである。(1)サイクルスポーツイベント、(2)サイクリングのまちづくり、(3)プロロードレース大会の誘致、開催などを行っている。

11) 新潟県佐渡市における取組み (国土交通省, 2016)

佐渡島内 10 市町村は、合併により市町村間で行われていた協議・調整が不要となり効率化され、観光振興と島民の健康増進による地域活性化を目的としたスポーツイベントの幅が広げやすい環境となる。2004 年にはトライアスロンにリレー部門を創設し、団体競技としての要素を加えることで、参加者増を試みた。トライアスロンは 2011 年にテレビ番組で取り上げられ知名度が向上し、参加応募者数はさらに増加した。佐渡市のスポーツイベントは長距離系のトライアスロン、サイクリング、マラソンなどが中心で、このことが差別化につながりリピーターの確保に繋がっている。

3.4 グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム^{注(3)}の事例

12) 北海道千歳市における取組み（千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会, 2019）

北海道千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会は2005年12月に結成されたグリーン・ツーリズム促進の取組を行う農家等の団体である。千歳市における地産地消を目指し、収穫体験・野菜販売・フルーツ狩り・食事処等の情報を掲載した「千産千消 MAP」を作成している。同協議会のウェブサイトではさまざまな体験プログラムが紹介されており、申し込みや問い合わせも可能となっている。

13) 北海道長沼町における取組み（長沼町, 2023）

北海道長沼町は都市近郊の立地条件を生かし、都市と農村の交流促進と相互理解を図るため、グリーン・ツーリズム特区の認定を受けている。2005年にグリーン・ツーリズム事業を実践する農家により構成され設立した。旅館業取得農家は2021年12月末で98軒となっている。長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会へ参画している農家民宿は、植え付け、収穫等の畑作体験・稲作体験、酪農作業体験、農場施設見学などの農業体験、農業体験に加えて農家が体験者を家族の一員として迎え入れ食事の準備など生活を共にする農家民宿、農産物直売や農産加工品販売、アスパラ収穫、とうもろこし狩り、いちご摘みといった内容を実施している。

14) 北海道標津町における取組み（北海道根室振興局, 2020）（訪日ラボ編集部, 2020）

北海道東部に位置する標津町は人口約5,200人の酪農業と漁業の町である。2000年標津町の主要な水産物であるサケの安全性をピーアールするためモニターツアーを実施した。「忠類川サーモンフィッシング体験」として都市住民や修学旅行生などを対象にサケ釣りの体験や、秋サケの加工体験などを実施している。2001年には「標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会（エコ・ツーリズム協議会）」が発足し、地域資源や産業を活用したツアーを実施した。2003年には修学旅行7校を含めた全8件、約1,600泊の宿泊と、2,300人以上の体験プログラム参加者の受け入れを達成した。

3.5 エコツーリズムの事例

15) 青森県五所川原市における取組み（事業構想オンライン, 2014）（地方創生「連携・交流ひろば」運営事務局, 2024）

青森県の冬は天候が悪化すると視界が白一色となって何も見えないホワイトアウトの状態に陥る。地元住民にとっては危険で厄介な地吹雪である。1987年に青森県金木町（2005年3月五所川原市、市浦村と合併し現在は新市制により消滅）出身者7人が「企画集団ラブリー金木」を立ち上げ、1988年1月に第1回地吹雪体験ツアーを実施した。ツアーの参加人数20人で参加者は「角巻」（ショールのような津軽地方の防寒具）を身にまとい、「もんぺ」をはき、「かんじき」を足に着け、地吹雪を体験。その後は馬ソリを体験し、最後は郷土料理の鱈の「ジャッパ汁」で身体を温めるなど津軽の冬を満喫するプログラムになっている。北国での日常生活が、旅行者には非日常を体験できる観光資源となり、北国の日常を活用することで金木町の観光客入込数は1987年33万人から2001年67万人とほぼ倍増した。

3.6 コンテンツツーリズム・フィルムツーリズムの事例

16) 北海道富良野市における取組み (環境省, 2009)

富良野市は北海道のほぼ中央に位置している。富良野地域を舞台にした「北の国から」・「優しい時間」・「風のガーデン」はドラマの収録が終わってからも、使用されたロケ地は富良野観光スポットとして人気である。また最近では南富良野が 2020 年公開映画「糸」のロケ地となっている。富良野地域は冬季観光の資源として富良野スキー場があり、1977 年に FIS ワールドカップが行われて以来、世界的なトップスキーヤーが集まる大会やスノーボードのワールドカップや国体、全日本選手権など、様々な大会や行事が行われている。そして 1980 年代から「北の国から」のロケ地でもあるラベンダー畑が注目を集めることになった。富良野地域は自然環境とドラマのロケ地で富良野のイメージ作りに成功した。

3.7 稚内市及び周辺地域における既存の取組み

17) 稚内次世代エネルギーパーク (稚内市, 2011)

2011 年 2 月 28 日、「稚内メガソーラー発電所」を中核に風力、バイオマス、雪氷、電気自動車等の新エネルギー関連の各施設・設備を組み合わせ、資源エネルギー庁より「次世代エネルギーパーク」に認定された。日本最北端の地から次世代エネルギーの学習・体験ができる最先端都市として、その魅力を国内外へ情報発信することを目的としている。

18) ガストロノミーウォーキング in 日本のでっぺん稚内 (一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構, 2021)

温泉地をウォーキングして、歩いた目線で食や景観・自然、文化・歴史など地域を体感する旅を ONSEN・ガストロノミーウォーキングと称している (環境省, 2017)。稚内市での ONSEN・ガストロノミーウォーキングは 2018 年 9 月、2019 年 9 月の 2 回実施されている。2020 年 9 月に第 3 回が予定されていたが台風で中止。あらためて 2021 年 9 月に第 3 回が計画されたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大のため 9 月末まで「緊急事態宣言」となり、イベントは中止された。

ONSEN・ガストロノミーツーリズムのホームページにて稚内で実施された ONSEN・ガストロノミーウォーキングのイベントレポート (一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構, 2018) には「稚内には、まだまだ行きたいところがいっぱいあります。ノシャップ岬で夕陽を眺めたいし、宗谷岬にも足を伸ばしたいな。次回は利尻島・礼文島まで足を運ぶのもありだし、有名な豊富温泉に入りに行くのもありかな、なんて妄想にふけつつ、湯船の中でトロトロする最高の幸せ。」

とのコメントもあり、温泉は地域資源として期待できる。

19) 北海道立宗谷ふれあい公園 (北海道立宗谷ふれあい公園, 2024)

北海道立宗谷ふれあい公園は、1988 年度に北海道が策定した「北海道・緑のマスタープラン」による 5 番目の道立都市公園として 1998 年 7 月に一部供用開始され、2000 年に全面供用開始された。屋外施設はオートキャンプ場、パークゴルフ場、多目的広場、屋外遊戯場、スキー場、展望広場、屋外ステージ、交流広場からなり、屋内施設 (ビジターセンター) はバーベキューコーナー、屋内遊戯

場、研修室、インドアガーデンからなっており「未来への北方圏交流拠点の形成」というコンセプトのもとに、四季を通じて、様々な地域間の交流の場として広く利用されている。

20) 稚内市みどりスポーツパーク (稚内市教育委員会, 2020)

稚内市みどりスポーツパークは、カーリング場(4シート、観客席180席)、多目的体育館、武道場、アーチェリー場、会議室からなる。冬季オリンピックで注目されるようになったカーリングを体験できる施設であり、稚内市におけるスポーツツーリズムの重要な拠点と位置づけられている。

21) レンタサイクル (稚内市建設産業部観光交流課, 2020)

稚内観光協会が受付場所となり、4月下旬から10月の期間で貸出。貸出時間については9:30から17:00までの時間内で当日返却となっている。自転車は電動アシストとクロスバイクの2タイプで、1時間単位・1日・1泊での利用が可能となっている。おすすめとして、稚内駅から宗谷岬まで32km、片道約2時間のモデルコースが紹介されている。周辺には見どころスポットが多く、サイクリングを楽しみながら人気の観光地巡りが可能とされている。

22) フットパス (稚内商工会議所, 2021)

稚内には4つのフットパスのコースがある。フットパスはイギリス発祥の「歩くことを楽しむための道」が語源となっている。各コースは、次に記すようにそれぞれ特徴がある

(1) 宗谷丘陵コースは、北海道遺産となっている「周氷河地形」を歩くコースで57基の風車や天気の良い日には海の向こうに異国サハリンの島影を望むことができる。また、ゴール手前3kmはホタテの貝殻でできた「白い道」があり、写真映えするスポットとして人気である。ロングコースは約11km/約4時間、ショートコースは約5km/約2時間のコースとなっている。

(2) 稚内公園コースは、稚内の文化と歴史に触れるコースで稚内駅からスタートし高台に位置する稚内公園を巡るコースで、稚内公園には高さ8メートルの稚内公園の代表的なモニュメント「氷雪の門」を含む多くのモニュメントがある。約3km/約1時間のコースとなっている。

(3) 空港公園メグマ沼コースは、稚内空港をスタート地点として湿原や沼を見て空港に戻るコースで、メグマ沼では季節によって200種を超える植物が確認できる。約3km/約1時間のコースである。

(4) ノシャップ岬コースは、稚内駅をスタートしノシャップ岬まで海沿いを歩くコースで、スタートしてすぐに北海道遺産の北防波堤ドームが目に入る。海沿いの道には水産加工場が並んでいるが既に廃業している工場跡などもあり、稚内の産業の歴史を知ることができる。ノシャップ岬のシンボル稚内灯台の高さは42.7mで全国第2位の高さで、赤と白のストライプが目を引き。このコースは約5.5km/約2時間のコースである。

23) ゴルフ (影山, 2021)

稚内市には稚内カントリークラブ、ノースバレーカントリークラブの2つのゴルフ場がある。どちらも稚内空港から車で15分未満であり、航空機を利用したプレーヤーにはアクセスが良い。稚内空港から最も近い稚内カントリークラブは丘陵地を利用した起伏のあるコースで、稚内の特徴ある風、

そして名峰利尻富士など風光明媚な景色を楽しむことができる。また天気の良い日には海の向こうにサハリンが見える海岸沿いのコースである。

近年わが国の夏は一般に猛暑とも称されるが、稚内市は最も暑い 8 月でも平均最高気温は 22.3 度と過ごしやすい（稚内市・稚内観光協会, 2023）。空港からも近く、さわやかな夏を楽しめる稚内のゴルフ場は、スポーツツーリズムとして集客可能な資源といえる。

24) 稚内市映画北の桜守資料展示施設 北の桜守パーク（稚内市, 2018）

吉永小百合さんの主演映画で北海道を舞台に北の三部作として「北の零年」、「北のカナリアたち」、「北の桜守」が公開された。「北の桜守」は稚内空港、抜海駅、旧瀬戸邸、声問海岸、宗谷丘陵などの稚内市内各地で撮影が行われ、撮影に使用したロケオープンセットは稚内市映画北の桜守資料展示施設「北の桜守パーク」として保存、活用されている。

この映画を契機に「わからないフィルムコミッション」が 2019 年に設立された（稚内市, 2019）。

4. 稚内市及び周辺地域における多様なツーリズムの可能性

各地において観光客の増加や地域活性化に向けて、地域資源を生かした多様なツーリズムに関する取り組みが行われている。

3 章 12) で取り上げた北海道千歳市には、農業体験、収穫体験、作る、食べる、などさまざまな体験プログラムがあり、秋野菜、夏野菜の収穫体験、果物狩り、そば作り、石窯パン作り、ファームイン（農園宿泊体験）など自然、文化、地域の人々との交流を楽しむ多彩な内容となっている（千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会, 2019）。

3 章 13) で取り上げた北海道長沼町では、2014 年に長沼町グリーン・ツーリズム 10 周年記念式典並びに懇親会が行われ、今までに長沼町で農家民泊を経験した生徒 25 名も参加した（長沼町, 2018）。

3 章 14) で取り上げた北海道標津町は、漁・ホタテ漁など魚介類の荷揚げ作業のガイドによる案内、水揚げされた鮭・ホタテ・カレイ・コマイ・北海シマエビ等魚介類のセリ見学、標津でとれた新鮮な鮭を利用しイクラや新巻鮭作り、ホタテ貝殻剥き体験、ホッケの開きづくりの体験など地域資源を活用した豊富な漁業体験プログラムが用意されており、酪農体験を合わせると 37 種類の豊富なプログラムでエコツーリズムを展開している（北海道根室振興局, 2020）（訪日ラボ編集部, 2020）。

稚内市においても、地域資源を有効に活用しさまざまなツーリズムで新たなニーズが見込めるものと考えられる。

稚内市は宗谷岬に「日本最北端の地の碑」を有するが、最北の地への来訪が目的であれば一度で達成される。来訪したことをきっかけに、それまで知らなかった観光資源や住民との関わりに魅力を感じてもらい再訪に繋げること、すなわちツーリズムを利用しながら人と人との繋がりを築くことが重要である。リピーターを増やすには、地域の子どもたちを含めた交流もポイントとなると考える。

観光庁は、2007 年度から 2009 年度にかけて児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業を推進し、成果の一つとして児童・生徒によるボランティアガイド手引き書を作成している。その指導者向け手引き書において、

特に「児童・生徒」については、自らの地域に対して愛着を持ち他地域からの旅行者を

受け入れる側として、また、旅行者となって他地域を訪れる側として、観光立国を将来にわたって支える主体となることが期待されている。

と記されている（国土交通省観光庁, 2011）。

地域の子どもたちが観光客と交流しホスピタリティを育てることは、住んでいる街に自信を持つことに繋がる。また、地元の子どもたちと、家族で観光に訪れた子どもたちとの交流により、また会いたい、一緒に時間を過ごしたいという気持ちが生まれ、リピーターとなる可能性がある。そして、稚内に親しみを持ってもらうことで、持続して訪れる可能性が高まることが考えられる。

住民が地域に誇りを持ち地域資源を生かしていくことが重要であり、住民参加型の取組みとして住民が稚内を紹介し、その対象者が稚内を訪問した場合に紹介者、対象者どちらもメリットがある取組みも考えられる。

その意味では、

稚内市民一人一人に、「わがまちを知る」ための学習機会を提供するとともに、稚内のまちに誇りを持ち、胸を張って「わがまちを語る」ガイド役となってもらうため、初級・中級・上級と3段階に分けた検定試験を実施し、合格者には「稚内観光マイスター」と呼ばれる称号を与え、稚内が認める「ガイドの達人」として稚内観光振興に寄与すること

を目的としている稚内観光マイスター制度（稚内市, 2023）は基盤となる可能性があり、更なる発展が期待される。

5. おわりに

単純に「見る」資源の体裁を整えるだけでは、魅力あるツーリズムにはならない。行政、観光業関連、観光ボランティアの人々は、観光客増加に向けた取り組みにおいて重要な役割を担っている。それに加えて、地域住民が地元だからわかる生活や地元に着した話題などで観光客と交流する経験は、ツーリズムを持続可能なものにすることに繋がると考えられる。

地域資源を生かしたツーリズムは地域を訪問するきっかけの一つである。様々なアクティビティを組み合わせ、その地域に興味を持ってもらうことで、リピーターとなる可能性が高まる。そこでは、地域住民も関わりながらつくるツーリズムが重要となってくる。

本論文により、稚内市および周辺地域における地域資源を生かしたツーリズムの可能性を高めるための基本的な課題を整理することができたものとする。

謝辞

本論文は執筆者中里の本学における卒業研究を基に、その発展形として作成した。大学関係者の皆様をはじめ多くの方々にご指導ご鞭撻を賜り、心より感謝申し上げます。

在学中は、観光学に関する授業で井出晃憲先生に学問的、実践的な教えをいただいた。心より感謝申し上げます。井出先生とご縁のある旅行会社の稚内ツアーにご一緒させていただいたことは貴重な体験となった。旅行プランナーの宮田様をはじめツアーに参加された皆様に、心より感謝申し上げます。

北海道立宗谷ふれあい公園より提供いただいた利用者数の情報は、大いに参考となった。ご協力に深く御礼申し上げます。

● 注

- (1) ツーリズムに関し、国土交通省観光庁（2010）は、従来の物見遊山的な観光旅行に対して、テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた新しい形態の旅行を指してニューツーリズムと称し、テーマ例としては産業観光、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルスツーリズム、ロングステイ等を挙げ、旅行商品化の際に地域の特性を活かしやすいことから、地域活性化につながるものと期待されている、と記している。本論文において、何らかのテーマ性のある旅行に関し、旅行者の活動や関連する地域の取組みを含めてツーリズムと称している。なお、各ツーリズムの表記（記号「・」（中点・中黒）の有無）は、それぞれの出典に基づいており、統一はしていない。
- (2) DMO（Destination Management Organization）観光地域づくり法人は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人（国土交通省観光庁, 2023）。
- (3) ブルー・ツーリズムとは、国民ニーズに応える新しい余暇活動の提案、離島・漁村地域の活性化（交流・体験事業による効果）、漁業と海洋性レクリエーションの調和をねらいとした、島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実したマリンライフの体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称（国土交通省・水産庁, 1998）。

● 引用・参考文献

- 一般財団法人自治体国際化協会（2016）「岡山県真庭市のバイオマス事業が観光コンテンツに！ 海外からも視察が真庭にやってくる！」
<<http://economy.clair.or.jp/casestudy/inbound/1226/>> 2024年1月19日閲覧
- 一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構（2016）「ONSEN・ガストロノミーツーリズムとは」
<<https://onsen-gastronomy.com/about/>> 2024年1月19日閲覧
- 一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構（2018）イベントレポート vol.32 「ONSEN・ガストロノミーウォーキング in 日本のでっぺん稚内を開催しました」
<<https://onsen-gastronomy.com/eventreport/onsen/2018wakkanai/>> 2024年1月19日閲覧
- 一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構（2021）「～中止となりました～ 第3回 ONSEN・ガストロノミーウォーキング in 日本のでっぺん稚内」
<<https://onsen-gastronomy.com/eventinfo/wakkanai-0925/>> 2024年1月19日閲覧
- 影山篤（2021）「ゴルファーなら一度は訪れたい日本最北端のゴルフコースとノシャップ岬の絶景夕陽」, ゴルフ情報 web サイト「ゴルフラボ」
<<https://www.golflab.jp/interview/wakkanai/>> 2024年1月19日閲覧
- 環境省水・大気環境局大気生活環境室（2009）富良野（北海道富良野市）レジャー施設依存の「まちづくり」から、自然のフィールドへ、感覚環境のまちづくり事例集～こんな“まち”がいい感じ～ pp.101-111

地方都市における地域資源を生かした多様なツーリズムに関する基礎的研究
—各地の取組み事例と稚内市及び周辺地域における可能性—

- <<https://www.env.go.jp/air/sensory/jireishu/index.html>> 2024年1月19日閲覧
環境省（2017）ONSEN・ガストロノミーツーリズムを活かした温泉地活性化について，第1回自然等の地域資源を活かした温泉地活性化に関する有識者会議参考資料5，11pp.
- <<https://www.env.go.jp/nature/onsen/council/yuushikisya/01yuushikisya/sanko5.pdf>> 2024年1月19日閲覧
- 北こぶしリゾート（2022）『”今行くべき全国のサウナ施設”に「北こぶし知床 ホテル&リゾート」が2022年も選出！』，PR TIMES
- <<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000007.000061045.html>> 2024年1月19日閲覧
- きた・北海道DMO（2023）稚内・利尻・礼文観光WEBサイト「宗谷ふれあい公園スノーランド」ページ
- <https://www.north-hokkaido.com/event/detail_1157.html> 2024年1月19日閲覧
- 葛巻町（2021）葛巻町過疎地域持続的発展計画（令和3年度～7年度）
- <https://www.town.kuzumaki.iwate.jp/docs/2021101300033/file_contents/kuzumaki-kasochiiki-hatten-keikaku.pdf> 2024年1月19日閲覧
- 国土交通省（2016）地方都市を中心とした地域発イノベーション取組事例その3，稼げる国土専門委員会第3回資料4
- <<https://www.mlit.go.jp/common/001157356.pdf>> 2024年1月19日閲覧
- 国土交通省観光庁（2010）ニューツーリズムの概念，「ニューツーリズム旅行商品 創出・流通促進 ポイント集」p.2
- <https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/new_tourism.html> 2024年1月19日閲覧
- 国土交通省観光庁（2011）児童・生徒によるボランティアガイド手引き書（指導者向け）p.1
- <<https://www.mlit.go.jp/kankocho/pdf/shidoutebiki.pdf>> 2024年1月19日閲覧
- 国土交通省観光庁（2023）観光地域づくり法人（DMO）とは？
- <https://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000048.html> 2024年1月19日閲覧
- 国土交通省（旧国土庁）・農林水産省水産庁（1998）ブルー・ツーリズムの魅力
- <https://www.mlit.go.jp/crd/chirit/blue-t/blue_info1.html> 2024年1月19日閲覧
- 佐賀市（2017）「バイオマス産業都市さが」視察申込ページ
- <<https://www.city.saga.lg.jp/main/50242.html>> 2024年1月19日閲覧
- 事業構想オンライン（2014）逆転の発想で「地吹雪」を観光資源に 角田周（津軽地吹雪会代表、観光カリスマ），月刊事業構想 2014年7月号 地域未来構想 青森県
- <<https://www.projectdesign.jp/201407/pn-aomori/001486.php>> 2024年1月19日閲覧
- 鈴木 克範（2021）「北海道 当麻町発！ キャンピング“サウナ”バスが2021年6月21日（月）からレンタル予約開始」，旬刊旅行新聞
- <<https://www.ryoko-net.co.jp/?p=95509>> 2024年1月19日閲覧
- 全日本ノルディック・ウォーク連盟（2009）ノルディックウォークについて
- <https://www.nordic-walk.or.jp/index_info/nordic_walk_info.aspx> 2024年1月19日閲覧
- 高根沢 武一（2021）「ヒーローズ・ジャーニー」，資料7，栃木県ウェブサイト

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c09/jitensya/documents/3_10_shiryou7.pdf> 2024年1月19日閲覧

高橋 克英 (2020a) なぜニセコだけが世界リゾートになったのか, p.117, 講談社, 184pp.

高橋 克英 (2020b) なぜニセコだけが世界リゾートになったのか, p.120, 講談社, 184pp.

高橋 克英 (2020c) なぜニセコだけが世界リゾートになったのか, p.165, 講談社, 184pp.

千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会 (2019) 千歳市グリーンツーリズム

<<https://chitose-greentourism.com/>> 2024年1月19日閲覧

地方創生「連携・交流ひろば」運営事務局 (2024) 地方創生実践事例「ユニークなアイデアと強靱な実行力で"厄介もの"を観光資源に」

<<https://www.chihousei-hiroba.jp/case/jifubuki.html>> 2024年1月19日閲覧

十勝まきばの家 (2021) 日本初! 『ワイン樽サウナ』を新設しました

<https://makibanoie.com/tp_detail.php?id=165> 2024年1月19日閲覧

長沼町 (2018) 長沼町グリーン・ツーリズム 10周年記念式典

<https://www.maoi-net.jp/kanko_nogyo/green_tourism/kinenshikiten.html> 2024年1月19日閲覧

長沼町 (2023) グリーン・ツーリズム

<https://www.maoi-net.jp/kanko_nogyo/green_tourism/> 2024年1月19日閲覧

日本最北端わからない平和マラソン大会実行委員会 (2023) 「大会要項」のページ

<<https://wakkanai-marathon.jp/outline/>> 2024年1月19日閲覧

ヘルスツーリズム認証委員会 (2021a) OWANI 阿闍羅の修験道スノーハイクと温泉体験

<<https://htq.npo-healthtourism.or.jp/member/tohoku/2022012502.html>> 2024年1月19日閲覧

ヘルスツーリズム認証委員会 (2021b) 楽しく歩ける"生涯スポーツゴルフ"と"心と体の食"再発見の旅

<https://htq.npo-healthtourism.or.jp/member/hokuriku_koshinetsu/2172031401.html> 2024年1月19日閲覧

ヘルスツーリズム認証委員会 (2021c) みなかみヘルスツーリズム「ノルディックウォーク 谷川岳・一ノ倉沢コース」

<<https://htq.npo-healthtourism.or.jp/member/kanto/2104493506.html>> 2024年1月19日閲覧

訪日ラボ編集部 (2020) 「ブルーツーリズムで漁村地域の活性化を 成功事例から学ぶ新しい旅の魅力」

<<https://honichi.com/news/2020/07/10/bluetourism/>> 2024年1月19日閲覧

北海道建設新聞 (2021) 『「十勝まきばの家」に国内初的大型ワイン樽サウナ 池田町』

<<https://e-kensin.net/news/138804.html>> 2024年1月19日閲覧

北海道新聞 (2023) 「観光客 54%が 50 歳以上 情報収集 旅行中は口コミ最多」, 2023年2月4日朝刊 17面 (地域の話)

北海道宗谷総合振興局産業振興部商工労働観光課 (2024) 宗谷管内市町村観光入込客数調査結果令和5年度(2023年度)(上期)

<https://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/fs/9/6/3/6/8/2/6/_/【統合版】R5 上期観光入込客数調査結果.pdf> 2024年1月19日閲覧

北海道根室振興局（2020）標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/4/9/8/2/1/8/9/_/標津町 ET.pdf> 2024年1月19日閲覧

北海道道立宗谷ふれあい公園（2024）ふれあい公園について（指定管理者 株式会社稚内振興公社）

<<https://soyafureaikoen.com/about/>> 2024年1月19日閲覧

利尻富士町（2023）広報りしり富士9月号 NO.257p.3「きた・北海道 DMO」の活動実施及びアンケート結果について

<<https://www.town.rishirifuji.hokkaido.jp/rishirifuji/secure/1228/No257.pdf>> 2024年1月19日
閲覧

稚内市企画総務部エネルギー対策課（2011）稚内市次世代エネルギーパーク

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kankyo/energy/energypark.html>> 2024年1月19日
閲覧

稚内市教育委員会教育部総務スポーツ課（2020）稚内市みどりスポーツパーク

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kyoiku/kakusyushisetsu/msp.html>> 2024年1月19日
閲覧

稚内市建設産業部観光交流課（2018）北の桜守パーク（稚内市映画北の桜守資料展示施設）

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kanko/midokoro/spot/sakuramori.html>> 2024年1月
19日閲覧

稚内市建設産業部観光交流課（2019）わからないフィルムコミッション

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kanko/wfc/>> 2024年1月19日閲覧

稚内市建設産業部観光交流課（2020）稚内のサイクリング情報

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kanko/cycling/>> 2024年1月19日閲覧

稚内市建設産業部観光交流課（2021）観光入込客数調査結果

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/sangyo/kanko/tyosa/kankokekka.html>> 2024年1月19
日閲覧

稚内市建設産業部観光交流課（2023）稚内観光マイスター

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kanko/meister/>> 2024年1月19日閲覧

稚内市建設産業部観光交流課・（一社）稚内観光協会（2023）稚内市の平均気温、稚内市公式観光ガイドブック p.2

<https://www.north-hokkaido.com/lsc/upfile/pamphlet/0000/0013/13_1_file.pdf> 2024年1月19
日閲覧

稚内市建設産業部水産商工課（2023）第7回日本最北端わからない白夜祭

<<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/sangyo/shoko/bussan/byakuyasai2023.html>> 2024年1
月19日閲覧

稚内商工会議所（2021）稚内フットパス

<<http://www.wakkanai-cci.or.jp/wakkanai-footpath/>> 2024年1月19日閲覧

Fundamental Research on Diverse Tourism Utilizing Regional Resources in Local Cities

- Examples of Initiatives in Various Cities and Possibilities in Wakkanai City and Surrounding Areas -

Takao ENDO and Mayumi NAKASATO

Abstract

Travels in the future will be individualized, fragmented, and diversified, and it will be important to provide tourism that meet needs of each people. Although the tourism industry in Wakkanai was greatly affected by the global spread of COVID-19, it is expected that the number of tourists will recover in the future, and it will be important to enhance tourism based on the recognition of local resources.

In this paper, based on the current situation in Wakkanai, we focus on the attraction by thematic tourism and consider the issues to increase the possibility of Wakkanai tourism utilizing local resources. For this purpose, various information on the Internet was investigated and organized as a way to widely confirm the efforts in each city.

If the goal is to visit the northernmost region in Japan, it can be achieved by visiting once, but it is important that visitors are attracted to other local resources and relationships with people through their visit, leading to a return visit. Tourism that takes advantage of local resources is one of the reasons to visit. By combining various activities and getting people interested in the area, they are more likely to become repeat tourists. In that context, it is important to create tourism that involves a wide range of local residents, in addition to local government, tourism industry, and tourism volunteers.

Keywords

Tourism Sightseeing Regional Resources Interactions of People Local Cities